

社会 第5学年 わたしたちの食生活を支える食料生産

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校5年の社会の授業づくりを手伝う役です。この後の「これからの食料生産」の学習指導案を私の学級に合わせて直してください。先に学級の人数と活動の組み方、既習の内容と残っている記録、学習上の困難や必要な配慮、単元に使える時間と研究授業の位置、使える器具・資料・ICTと安全管理について、一つずつ質問し、私の答えを待ってください。答えがそろったら、問い「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」と学習指導要領の範囲、評価の観点を保ちながら、活動と支援を具体的に直してください。教科書の本文・挿絵・固有の問題は転載しないでください。未知の児童の実態や未測定の結果は作らず、数値には出典か私の回答を付けてください。安全に実施できない活動は、同じ問いを考えられる公的資料や記録へ替えてください。先生に渡す文に内部の識別番号やを出さないでください。元と同じ見出しの順で全文を示し、変更理由と根拠にした回答を最後に書いてください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第5学年 社会科学学習指導案

1 単元名 「わたしたちの食生活を支える食料生産」 教材名「これからの食料生産」

2 単元の目標

食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれることを理解し、地図・写真・統計・説明資料と調査記録を扱う技能を身に付ける。「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」を追究し、根拠を基に考えを表す。自分の記録を見直し、分からないことを確かめながら学習に取り組む。((2))

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれることを理解している。

〔知識・技能〕②地図・写真・統計・説明資料と調査記録について、対象、条件や時期、調べて分かったことを区別して記録している。

〔思考・判断・表現〕①「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①これからの食料生産の学習で生じた疑問について、自分の記録や友達の考えを基に調べ方や説明を見直し、解決しようとしている。

4 指導上の考察

（１）単元について

「これからの食料生産」は、第5学年の(2)を手掛かりに、人々の働きと社会の仕組みを調べる単元である。中心となる理解は、食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれることである。名称を覚えて答えるだけでなく、「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」に答えるために何を見て比べればよいかが授業の焦点になる。

本案では、既習の生産の工夫と食生活を振り返るところから始め、生産者と消費者の願いを比較する活動を通して考えを確かめる。結論だけを先に提示すると、観察や資料が答え探しになるため、予想と理由を残してから調べる。単元末にはこれからの食料生産への考えを述べることで、学んだ言葉と根拠が結び付いているかを確かめる。

学校の既習と実態は資料だけでは決められない。前の記録を見て、説明に必要な言葉や道具の扱いを確かめる。扱ったことのない内容を既習として書き込まず、必要な確認を導入に加える。

(2) 児童について(学級の実態を書く)

(3) 指導について

本時では「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」を中心の問いに据える。食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。

児童の最初の考えを消して正答に直させるのではなく、どの記録で考えが変わったかが分かるよう書き足させる。国産ならすべてよい、輸入をなくせばよいという単純な結論には、価格、自然条件、供給の安定、働く人の立場を資料で比べる。自給率は定義の違う数値を混ぜない

資料を読むことや書くことが負担になる児童には、比較する箇所を絞った図、読み上げ、指差しや口頭説明を用意する。説明の代筆は児童に内容を確認してから行い、文字量で理解を判断しない。早く説明できた児童には、同じ説明が当てはまらない記録がないかを探させる。

安全と扱いの留意点は次のとおり。家庭の食費や食事内容を公開しない。数値は公的資料の対象年度を明示し、実際の購入を課題にしない

5 指導と評価の計画(全7時間)

第1次 第1～2時:○既習の生産の工夫と食生活を振り返る。 評価:知①・知②(記録・活動の観察)

第2次 第3時:○産地と生産の変化を資料で読む。 評価:知①・知②(記録・活動の観察)

第3次 第4時:○輸入との関わりを調べる。 評価:知①・知②(記録・活動の観察)

第4次 第5時:○生産者と消費者の願いを比較する。 評価:知①・知②(記録・活動の観察)

第5次 第6時(本時を含む):○食料確保の取組を理由付きで選ぶ。○食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。 評価:思①(個人の説明・記録)

第6次 第7時:○これからの食料生産への考えを述べる。 評価:態①(記録の見直し・振り返り)

6 本時の指導(6/7(配当案))

(1) 本時の目標

「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、資料の事実を示しながら自分の考えとその理由を説明できる。

(2) 学習過程

【導入】

学習活動:○前時までの記録から「既習の生産の工夫と食生活を振り返る」ときの疑問を取り出す。

○「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」

【めあて】調べた事実を使い、自分の考えと理由を説明しよう。

○一人で予想と理由を書き、調べたい点を確認する。

予想される児童の反応:・食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれるのか確かめたい。

・前の記録と比べると違いが見つかりそう。

指導上の留意点:・答えを先に示さず、児童がどの記録を根拠にしたかを尋ねる。

・家庭の食費や食事内容を公開しない。数値は公的資料の対象年度を明示し、実際の購入を課題にしない

【展開】

学習活動:○前時までの観察・調査の記録を使う。以下に示す調べ方を振り返り、本時は問いに関係する記録を比較する。追加の実験・調査は方法を計画し、次時に確かめる。

○食料の産地分布、生産の変化、輸入の資料を年・単位をそろえて読む。生産者の工夫と消費者の選び方を関係付け、安定して食料を確保するための取組を複数の立場から検討する。

○「どの資料の事実から、そう考えましたか」

○自分の説明を相手に示し、根拠が同じか違うかを比較する。

○説明できない記録があれば条件や資料の読み方を確かめ直す。

予想される児童の反応:・同じだと思ったが、比べるところをそろえると違いがある。

・この記録だけではまだ決められない。

・生産者と消費者の願いを比較することで、理由を確かめたい。

指導上の留意点：・国産ならすべてよい、輸入をなくせばよいという単純な結論には、価格、自然条件、供給の安定、働く人の立場を資料で比べる。自給率は定義の違う数値を混ぜない

- ・結果に合わない意見も記録へ戻る材料として取り上げ、発言した児童を責めない。
- ・比較が難しい児童には記録の対応する箇所を指し示し、まず事実を口頭で説明させる。
- ・本時に単元全体の実験や調査をやり直さない。比較する記録を準備し、方法を確認する必要がある部分だけを実物で示す。

評価：思①「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」について、人々の働きや資料同士の関係に着目し、根拠を挙げて説明している。(個人の記録と説明。交流前後の変更理由を含めて見る。)

【まとめ】

学習活動：○本時の問いへの答えを、根拠となる資料の事実とともに書く。

【まとめ】食料生産は国民の食料を確保する役割をもち、自然条件や外国との関わりの中で営まれる。

○最初の考えから変わったことと、まだ調べたいことを記録する。

予想される児童の反応：・考えが変わったのは、記録を比べたときに違いを見付けたから。

- ・まだ確かめていない条件が残った。

指導上の留意点：・まとめは確認した資料の事実を根拠に書く。資料によって見方が分かれる場合は、作成時期・立場・対象を確かめ、未確認の点を残す。

- ・振り返りで分かった支援の必要な点は次時の活動に反映する。

評価：知①(まとめの説明)／態①(記録を見直す過程。発言回数や文章量だけで判断しない。)

(3) 板書計画

上段に「これからの食料生産」と本時の問い「これからも食料を確保するため、生産者と消費者にはどんな関わり方があるだろうか」。左側に予想とその理由、中央に実際に調べた事実の記録、右側に事実から考えた説明を置く。中央は条件・時期・対象が分かる見出しにし、比較する記録を同じ高さに並べる。生産者と消費者の願いを比較する際に用いた記録を残し、根拠と説明を線で結ぶ。下段には確かめられたことと、まだ残る問いを分けて置く。発言の多い子の説明だけで仕上げず、個人の記録の違いを残す。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

